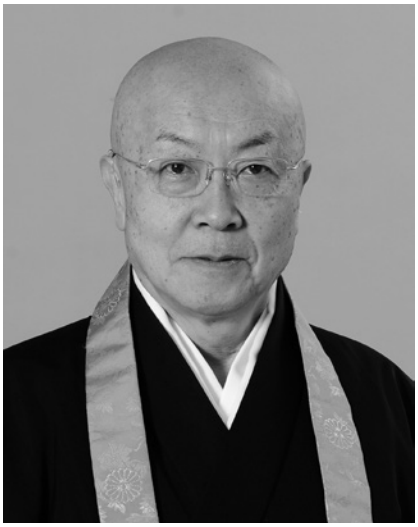
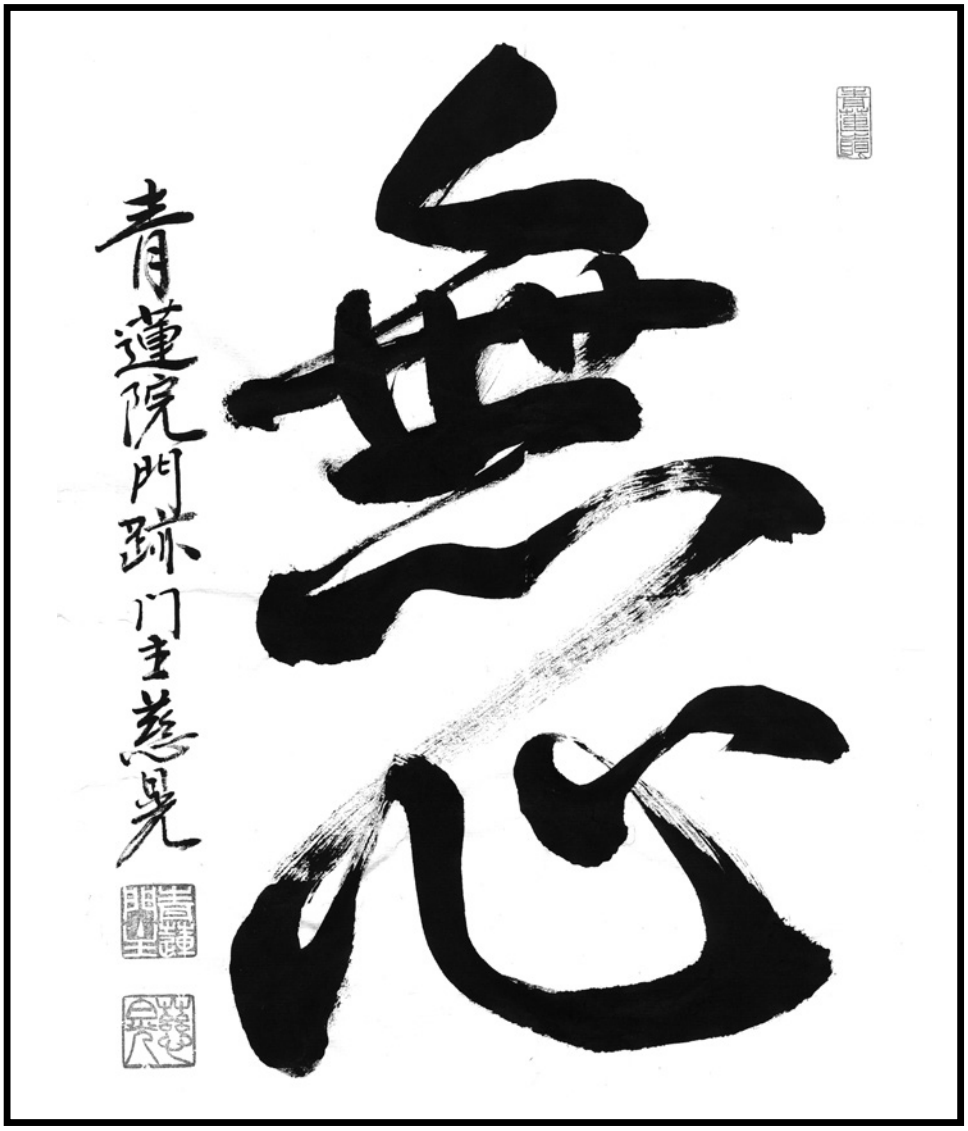
一般社団法人 大日本武徳会

会報 武徳

2021.4 春季号



一般社団法人　大日本武徳会



一般社団法人

大日本武徳会

役員名簿

代表理事 濱田鉄心

副総裁兼理事 桑原兵充

理事 竹田豊

理事 山田文典

理事 渡邊佳代子

理事 上村雅彦

理事 中田浩大

監事 藤井正巳

監事 坂本俊一

武種別・武道執行専門委員名簿（順不同）

居合道

濱田鉄心
桑原兵充
中田武太
山本楠城
藤井正巳
市村章
桶田正信
落合春彦
柳田邦治
平林裕蔵
中田浩大
中森茂範
長田順一
東出廣志
桝田正博
井本敏弘
成田守
小林信之
滝山昭
北川茂
山田文典
松本秀邦
村上亨
石本一平

村田雅人
山本勇
森内一藏
木下公子
菓子野三恵
渡邊佳代子
樫野正
山口峻輝
戸田樹
伊藤學
松村則夫
平松男
高木宏造
渡邊祥正
西村竹生
安藤肇
小松秀敏
杉生闡祐
加藤敏夫
木下賢司
長谷川安輝
松本和清
橋本孝生
伊藤正樹
小田尚幸

古武道

齋藤勝則
石原朋英
樋口友視
美野清孝
桑原兵充
濱田鉄心
中田武太
竹田豊
杉野至寛
中田浩大
中森茂範
長田順一
太田淳一
木下公子
北野隆雄
北川茂
宮園國男
永井節哉
平野秀雄
川村忠義
早坂義文
二又静明
村山盛哲

剣道

藤井正巳
上村雅彦
樋口勉
濱田鉄心
中田武太
深野良興
市村章
中森茂範
長田順一
落合春彦
杉生闡祐

柔術

桑原兵充
濱田鉄心
竹田豊
北野隆雄
高島伸幸

空手道

濱田鉄心
桑原兵充
道観世宗慶

合気道

齋木泰徳
上村雅彦
大沼州彦
花元浄一
荒木博
森内一藏
田中天心
中西忠直
松村哲人
安藤貞男
藤本准三
坂本俊一
松尾一道
中西智美
佐藤哲治

濱田鉄心
桑原兵充

柔道

桑原兵充
濱田鉄心
北野隆雄
高島伸幸

武徳への道

濱田　鉄心

令和三年の幕開けは、昨年より続いた新型ウイルスによる世界的流行のさらなる不確定な恐怖と、分断や格差という社会問題が地球レベルであらゆる地域に噴出し、多くの人達が未曽有の危機に直面している事で始まりました。国内も世界もコロナウイルスを、如何にして収束させるかという事に関して多岐に渡る努力がされておりますが、科学的疫学上の観点からこの解決策をいち早く見出すことがいかに困難であるか、人類はこの一年間で厳しく認識しました。しかし、現実は余りにも過酷であり、コロナとの闘いは始まったばかりであると言わねばなりません。海外の会員からも、その厳しい現状を報告してきておりますが、都市封鎖の繰り返しと経済停滞や失業などそれに関連した社会心理の悪化などの負の連鎖が大きな影響を及ぼしています。

このような不確定な世界であっても私達が修行する武徳の道は、あくまで活人剣（拳）であり、共存共栄の道であります。その道を懸命に模索し実践すると共に、相互に理合をもたらす存続繁栄の術を見出す努力をする事により、極めることが可能になるのです。その武徳の哲理を鑑みると、一つの国だけではコロナとの闘いは克服出来ません。先進国だけの力では不十分です。世界中の科学者が団結し、人類の英知を懸けてコロナに対する解決策を発見する必要があります。コロナウイルスは、富める国も貧しき国も、国籍や老若男女も問わず容赦なく感染拡大を続け、人間が作り上げた最先端のＡＩや、スーパーコンピュータよりも早い速度で変異を繰り返し、人間を介して地球を覆っていきます。それに対抗するには、地球レベルで人類一丸となる決意と実行が不可欠です。地球上の人類が危険なウイルスに対して、強力な抗体を確保出来るように、あらゆる手段を試みる必要があります。果たしてそのような超国家主義の結束が可能になるかどうかは、各国の指導者たちが一枚岩に歩み寄らねば出来ないかも知れません。

しかし、その規範となるのはまずそれぞれの国が持つ最上の英知を結集して出来ることは全てやり尽くす行動力であると考えます。そのために、成すべき方策は多々ありますが、勇気ある超党派の政治の決断力が早急に必要とされます。国家の命運をかけて未曽有の緊急財政政策を素早く実行に移し、医療現場や社会福祉インフラの救済や、経済的維持と発展に全ての対策を満遍なく実行する事だと考えます。即ち未来を救うために現在を最大限救う事です。しかも、見えない敵との闘いは一刻を争います。ウイルスの感染度よりもはるかに速いスピードと予測感知力で実行せねばなりません。最上の危機管理意識の元、まず今やれることを決断し実行する事です。国民へのワクチン接種準備も適切な治験を素早く実施し、安全性と有効性を確認した上で、躊躇なく実施しなければなりません。国民の命を救うためには、武道の世界にある常在戦場の認識そのものと同じであると考えます。

国家が危機に面した時、いつの時代においても、何らかの形で救世主となり得るヒーローが出現します。我が国においては、今のヒーローは全ての医療従事者です。自らの命の危険性と直面しながら忽然と平常心で患者と対峙し、ウイルスと闘い看病する姿は正に真の侍です。

それと同じく緊急事態宣言の繰り返しによる様々な困難に直面している本会において、全ての会員の皆様には本会のヒーローになっていただきたいと切に願います。どんなに小さな形でもヒーローになれます。英雄とは大きな革新や革命だけを起こす人ではありません。ごく普通の愛情のこもった、情熱のある、奉仕精神を持った人たちです。即ち武徳の力を信じてひたすらに実行している名も知られていない人達です。そういう人たちの力がいずれ歴史を動かします。何卒会員の皆様には、本会発展の為に格別のご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

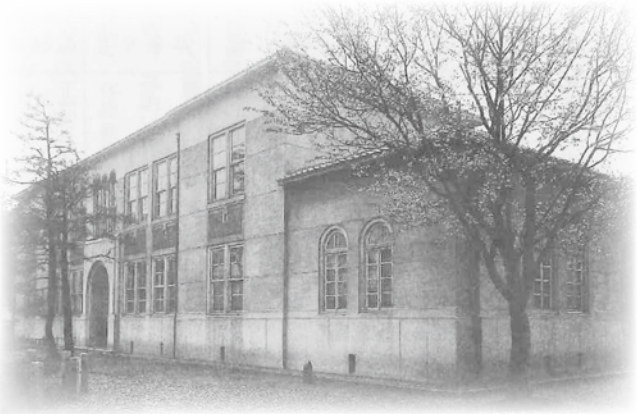
本年度二月七日、本会は緊急事態宣言下の状況を踏まえてコロナの感染拡大防止の為、第八回定時社員総会は、ズームによるリモート会議を実施いたしました。ご多忙中にもかかわらず、ご参加されました総裁猊下を始めとして多くの会員の皆様には厚くお礼申し上げます。その趣旨や協議内容及び決議承認事項に関しては、別途報告がされておりますのでご参照ください。本年度の第六回世界武徳祭は止む無く延期となり、第五十九回全国武徳祭は中止となりましたが、コロナの収束状況が改善されれば、夏秋に企画されている主催行事を実施する方向で検討いたします。さらに、来年度の四月に世界の武道家が結集する第六回世界武徳祭が実現する事を期待したいと思います。本会の創立百二十七周年を飾る歴史的な世界大会として、伝統武道を愛する国内と世界の会員有志が、その感動的な喜びを分かち合えることを切に願います。それまでに感染拡大が減少し、ワクチンの効果が発揮され、経済の回復が戻り、少しでも通常の穏やかな生活環境が取り戻せることを祈ります。そして、国内のみならず、世界の情熱的な武道家が正常な形で稽古に励む日が訪れると共に、本会の目指している武徳の促進と主催事業が一日も早く開催できることを心から願います。

私達が目指す武徳への道は、明るい希望の道でしかありません。武徳を志す人達により、その人達の為に、その道を目指して根気よくひたすら邁進していく事だと思います。

最後に、東伏見総裁猊下、桑原副総裁を始めとする本会役員の皆様と正会員、一般会員、並びに関係各位の益々のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

2016第５回世界武徳祭記念写真

レトロ特集号2



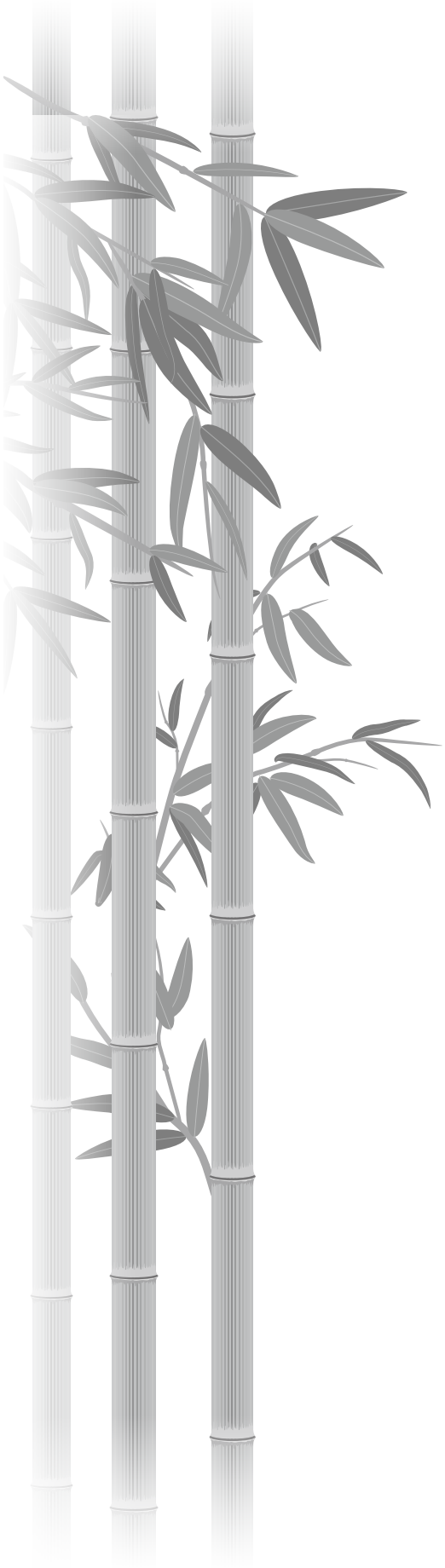
大正10年に完成した武道専門学校

大日本武徳会本部

武徳殿（明治32年3月竣工）

目次

武道家処世心得 ―― 三本松　喜代見 … 12
小林　信之 … 12
芸を盗む ―― 城戸　元亮 … 13
「芸を盗む」
（昭和四十二年創刊号より） ―― 小松　秀敏 … 13
日本人よ武道を見直せ ―― 鈴木　栄蔵 … 14
松村　則夫 … 15



会報 大日本武徳会 武徳

発行所
大日本武徳会本部
〒603
京都市北区衣笠馬場町11
電話 京都(075)462—1212番
編集兼発行人
三井清市
〒570
守口市佐太中町2丁目36—9
電話 大阪(06)901—1995番
振替口座 大阪42427
一ヶ年 1,000円(送料共)

武道家処世心得

副会長 範士 三本松 喜代見

皇国民の心得を武道修業の経験を通し考慮を記せば忠孝一本、文武一途、祭政一致を根底となすは茲に改めて説く必要無きも、現今の社界状態を眺むるに我執、暴慢、殺伐、残忍等幾多の反人道的行為を敢てなし当然の如く行動、恥と感ぜぬ態度者多きは何故ぞ。

一刀流兵法龍之巻に「縦令之を帯ぶと雖も争で其用を成し難く還て仇を求めん乎」。

兵法虎之巻に「殺活機に在り、変化時に応ず」の秘法あり、何れも剣戟を手にせる己の姿に対し自反を促し居る名言と信ず。如何なる道も其の実施上指導者は勿論習技者亦然り、手段を誤らば思想の混乱は当然にして、古来極意とする秘法は慢りに伝授せず、殊に武士道に於ては人格技術共最高只独りにのみ免許皆伝の制ありし所以でもある。

万法一如、心行一致は一刀流開祖の極意に示さるる秘法の一節にて「兵法は水に法る」の教へあり、即ち水は方円の器に従い一滴となり蒼海ともなる。強敵一人を自由に処理なし得る者は、如何なる多数にも勝ち得るものにて、其の心は一人も千万も同様なりと解説しあり、今日総ての競技中其が根底を忘却時代錯誤、ややもすれば真に遺憾極まる行動を見受くるは寒心に堪えざる次第である。

現代人の喪神の根底は、幾千年来の伝統たる国民精神の基礎忘却国情は勿論気候風土等一切相違の外国文化を模倣、木に竹を継げるが如き不自然的行為が原因となり世相変遷を来たし、大和民族の特質たる自治精神を失い滅私君国奉仕、祖先を尊ぶ思想に発する祭政一致より忠孝、文武凡ての日常守行人として、至善、明徳遂行の良心を欠き病者に化したるに非らざるにや。

古聖は忍び難き心より教を立て万民の安楽を欲せると伝へらる。斯の如き善行心を尊重人倫の大道遂行者の増加を祈願する次第である。更に天命と称する語に就て。理の体を以て天の命ずる所、森羅万象如何なるものにも春暖、夏暑、秋冷冬寒等其れ〴〵根本的真理一貫の則あり。

君に忠は臣の則、親に孝は子の則という如く万事皆然り、是れ即ち天命にして陰徳、積悪等生ずるも是れが為にて禍福、遅速を論ずる要なく但し、時、処、位を考慮の上善処肝要にして、身を修むる工夫を専一に何事にも礼を正しく重じ古来よりの聖言を守り、古と今、外国と日本、職業的、地方的等に区別あるも希望目的達成には勇気と決断の要あり、謙遜を以て血気鹿忽の振舞を慎み、唐土の虎は毛を惜み、日本の武士は名を惜む、真勇は慾を去り泰然として義理に安座を忘るる勿れ。以上の如く守行成さば万業成功間違無しと証覚すべし。

現今万国共に科学と道徳と反馳の如き観あるは、学者中道徳と科学の会通なすべき根本義に就て、徹底を欠くが為の思想混乱の胚胎に非らざるや？由来儒、仏、耶の如きも勿論哲学、道徳、科学、芸術、政治、経済、文武等、森羅万象一切を超越之を生々抱擁、発達成就せしむるは天理自然の法則にて、人を離れて宗教も哲学も道徳、政治、経済、文も武も意義無きと証覚、世界万邦共存、共栄的「天人即一」の真理を守行以て万民希望の光明和楽の大平和実現、武道家念願の武の文学が示す理想郷創造に努力邁進を日常の心得と致し居る次第である。

※先達の原稿は、発行当初のまま掲載させていただきました。
（昭和五十二年七月十八日 発行）

武道家処世心得

泰嵒会 小林 信之

武道家処世心得について、三本松喜代見先生の執筆は、現代を生きる我々にとっても大変貴重なお言葉でした。

武道修行のみならず日頃の生活において体感している事柄が、明確な言葉に表されています。熟読するほどに三本松先生から武道家心得の教えを頂き、これからの武道家人生の礎となるものです。

この会報武徳をはじめ古い書物は、偉大な先人達の叡智が詰められた宝庫です。その書物などには時代を超えた格言があり、我々はその書から武への境地を学び、さらなる探求と修練を重ね自己練磨していくことが、いにしえの武術を師より受け継いだ我々の使命だと思います。

芸を盗む

升田將棋九段が、芸は、師匠からおそわるものではなく「盗む」ものだといった。また、東京で有名な和菓子屋の初代主人は、自分のこどもにも、でしにも、製菓の手ほどきをせず、仕事の秘密は「盗み取る」ものだといっていた。一芸一道に達した人ともなれば、その心がけに変わりはない。さらに、升田九段は、語を次いで、師匠の肩を流そうと、酒の座にはんべろうと、その間に、いつとはなしに、自然に、將棋道を体得すべきであるといい、芸道の師匠からでしへの授受を「空気伝染」にたとえている。

いまでは、こういうけいこの仕方は、まわりくどく、手数がかかるので、非能率的だとして、すたってしまった。そのうえ、これをやるには、師匠の家に住み込み、でっちとしてこき使われ、家の内外のふきそうじ、こどものもり、その他の雑事をおおせつかって、寝る間もなく、給料はもらえず、休みといえば、盆とお正月だけ―こういう生活をしろといっても、自由主義がはばをきかし、人権思想が発達した現在では、おそらく相手にする者はいまい。

おかしの名人といわれる人は、ほとんど例外なく、こういう血の出るような修業をしてきた。芸道に近道はない。何事も科学的になったが、科学だけではこなせないものがある。和菓子でもっとも大切なものは「あん」だそうだが「あん」は、その作り方が非常に複雑で、口や手で教えられるものではない。やはり、苦心をして、その「コツ」を会得しなければならないものらしい。升田九段は、芸はからだで覚えるものだといっている。仏教に「不可説」ということばがある。真理は体得すべきもので、ことばでは説くことができないという意味である。芸道もその通りである。

科学の力が届かないものの一つに、物の味がある。ビールならばビールの成分を分析し、理想的な味を出そうとしても、長い間、きき酒で経験を積んだ人の舌の先にはおよばない。芸を盗み、からだで覚えることをしなくなったため、このごろの芸人・芸は浅い感じがする。それでも、マスコミの力で、ひっぱりだこにされている。芸と名づけば、それでいいのである。

（城戸元亮）

※先達の原稿は、発行当初のまま掲載させていただきました。
（昭和四十二年十一月三日 発行）

「芸を盗む」（昭和四十二年創刊号より）

古武道 唯心会 小松 秀敏

升田将棋九段が、芸は、師匠からおそわるものでなく「盗む」ものだといった。昔の名人といわれる人は、ほとんど例外なく血のでるような修行をしてきた。芸道に近道はない。苦心をして、その「コツ」を会得しなければならない。升田九段は、芸はからだで覚えるものだと言っている。その文章を読ませてもらったとき、ふと目黒先生のことを思い出しました。あれは私が居合を始めて十年位のことだと思います。その頃の目黒先生は業など直接教えてもらうことなどできないほどの雲の上の先生でした。そんな目黒先生の風格・人柄・技量を道場の隅から見て、どうしたらあんな風にできるのだろうかと稽古に励んでいました。ある時中伝の稽古をしていた時、遠くで目黒先生が「それだよ、その振り方だよ」と褒めてくださいました。予想外の事で自分を見ていたんだと思うと本当に嬉しかったことを思い出しました。あれから二十数年が立ち、目黒先生も亡くなり、今先生として弟子の面倒を見ています。弟子にはまず形を教えます。そして相手はどこにいるのか、近くに相手はいる、目付はどこにつけるのだ、相手の動きを見て動けと教え、繰り返し稽古させています。うまくできたときは褒めます。また稽古させます。その繰り返しです。弟子はどんどん力をつけています。そして自分がその業をしてみせます。弟子はそれを見てまた黙々と稽古を続けます。そんな稽古を週二、三回しています。イメージを言葉で言うのは簡単です。でも体はそう簡単には動けません。ただ黙々と体を動かすことです。それが稽古です。人の業を見よ、とにかく見よ、そして稽古せよと教えています。今回の寄稿の要請で、亡き目黒先生を思い出すことができ、また弟子たちの指導する気概を再認識できましたことに厚く御礼申し上げます。

日本人よ武道を見直せ

東北大学講師
鈴木栄蔵

紀元二千六百余年の歴史を誇りとして来た大和民族、その東洋の海国日本。敗戦無条件降伏後三十三年の歳月を迎え無から有の経済大国の地位を完遂し世界各国の認めるところであるが、何れも安保核の下に達成された。それは大和民族の英智であると高く評価されるが、世に公害と害毒を残して来た。更には精神文明と魂を置き忘れて来てしまった結果その命運は年を重ねる度に不安が増大して来ている。占領憲法の「平和と自由」その中には無法と暴力が含まれている。この美名の許に反体制勢力がデモとストを皮切りにゲリラと謀略集団が育成され生長し日本を基地として内外共に激化して来ている。一握りの集団と甘く見ているが、この一握りで革命は成るのだ。この恐るべき姿を一般国民は知らない、一日の生活と利害に追われて之等の事実を知ろうとしない。武力だけが脅威ではない、特に愛国の精神は失われ国の伝統も誇りも勇気も捨て去られた。日の丸旗も君が代までも教育の場から失われた。「表現の自由」は人倫の恥を忘れエゴの動向と化した、日本語より異国語を使い得々とし時の流れと国民は怒りも忘れ、このアメリカ民主主義に順応して来た今日の日本は人口だけは豊かだがその魂は矯正された、資源も食糧もエネルギーも無い、国軍の力も無い、総てに力が無いのが現在の真姿である。外観遠望は誠に堂々たる国柄に見えるが中味は空洞化された老屋だ倒壊寸前でもある。

良識者はこれに気が付き、日本人の持つ伝統遺産を取戻し真の日本人に還れとさけびだした。そうして武士道が見直され武士道論争がこの四、五年に亘り活発化して来た。同時に日本武道を求めて来日中の諸外国の修行者も異句同音に真意に欠けた皮相と形式を棚上げして真の武道精神とその理念の振興に努力すべきであると強い意見が続出している。特に表芸の中心たる剣道の姿に対し洞察力には驚くばかりだ。「スポーツ剣道とは何か」「スポーツとは単なるリクリエーションあるいは娯楽・趣味と解す。真の剣道を表していない。我々は何を好んではるばる遠くから、リクリエーション遊山の為に来ませうか、最も価値あることは真の剣道理念の会得と精神の鍛練を求め己れに勝つ修行を望んでいる」と、英国のロアルド・M・クヌトセン氏、ジョンパイパー氏も強く述べている。まるで主客転倒である。

我々同志の中にも早くからこの問題に対し「剣道は原点に返り剣道の本質を正せ」と。今、緊急な課題は現在の剣道の在り方、行き方に厳しい検討を加え、これを元の姿に引戻すことであると主張して来た。指導的中核にある戦後結成された「全日本剣道連盟」はこれらの声に袷を正すことはない。規約規程並に文部省指示方針を厳守する限り無理である。文部省の指示は「剣道は体育スポーツとして行く事」「スポーツ団体として組織され民主的に運営される団体である事」になっている。規約規程にもアマチュアの団体であると明言されている。独立国後もまた今日でも変りはない。

アマの団体にプロ（職業剣道人）が介入し参画し称号段位取得に血眼になっている姿は異様である。職業剣道人（プロ）の立場にある者がアマの団体から称号段位を受領するに当り抵抗を感じ得ないようだ、その段位称号は余りにも軽く尊敬が失われていると共に受領した者の人格識見教養も見当らない、更に技量の点にも疑問が多い。

今度全剣連では審判規則を改正し各地で講習会が実施されたが何れの地の講習会場でも大変な混乱が生じ受講者の反対を受けている内容は剣理的に矛盾の点が多く技術的にも実施困難な諸点が多すぎるとされる中でも「竹刀の刀筋」を失くした事である。全長の三分の一から先を打突部として、ここで打てば峰打ちでも平打ちでも有効とされる、結果は「丸竹の打ち合」と同様であって、剣刀の姿を消去っていることである。日本剣道の伝統的生命を奪うに等しいので絶対反対であるとさけぶ声が強い。

民主的に運営されるべきスポーツ競技団体の一員として存在する全剣連にして見ればこの改正は間違えではあるまい当然であろう。反対することが理解に苦しむところである。

スポーツ剣道を志す者に武道を論じても、ナンセンスであることを証している。

現在国民全般が思考力の欠如にある、付和雷同の感が強い自主性が失われていると言われている。時の勢い流れと思って迎合妥協し従っている、それが民主的行動と思っている。物の道理を解するを忘れそれに反した動向を取る人間に日本武士道の姿、その精神を求めても無理かも知れない。良識者心ある者は日本武士道精神こそ今日の日本の姿を正すことであると見直しの声を大にしているところである。

武士道とは武術の習得に向かって己れの人格形成を自覚し更に人間倫理から和心徳義の世想を確立する為努力実践されて来た時であった。

武道は日夜毎生死と対決し正義を意識し自己の心を浄め磨きその磨き上げた心を行動の基準とする。その神髄は勝敗から離れて、「生死超脱」の域に達することである。世界の何れの国にもある武術にも騎士道のどこにもこの深層に達しているものは無い。我が日本の武士道即ち武道のみである。戦国から江戸時代に現われた武士道哲学書、武術秘伝書、武道初心集は深い次元の境地まで成熟していることからも明白である。

戦後に捨て去られた、尺貫法も多くの声にささいきれずに元に戻した。

真の日本人に還ることこそ日本国大和民族の発展に継がることである。

それに総意する団体こそ大日本武徳会の真意と解す、大きな命懸かも知れないが時世の動きを察知思考力をもち目的に向って正しく発展することを会員一同の責務としたい。

※先達の原稿は、発行当初のまま掲載させていただきました。
（昭和五十三年一月十日 発行）

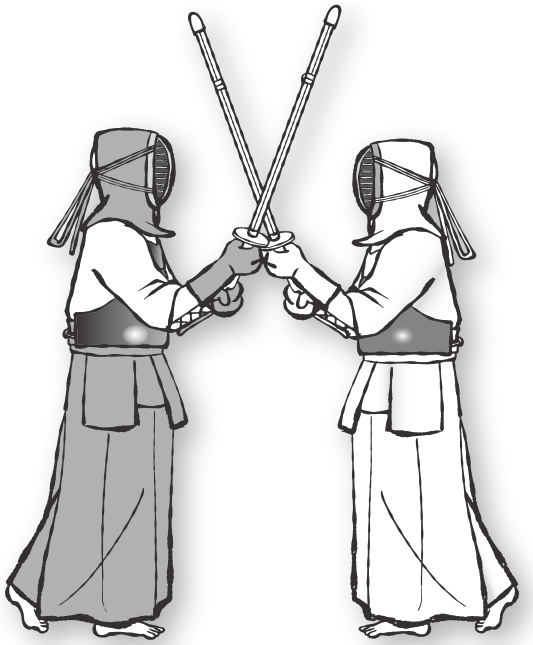
「日本人よ武道を見直せ」

理法塾　松村　則夫

東北大学講師、鈴木栄蔵先生の「日本人よ武道を見直せ」を拝読しました。武士道とは武術の習得に向かって己の人格形成を自覚し、さらに人間倫理から和心徳義の世界を確立する為努力実践されて来たもので、スポーツ化した格闘技は武道でないと論じられています。

平成二十年に武道の理念として「武道は武士道の伝統に由来する我が国で体系化された武技の修練による心技一如の運動文化で、柔道、空手道、剣道、相撲、弓道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道などを修練して心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である」と制定されています。

柔道がオリンピック競技に取り入れられてから、競技である以上勝敗が最優先され、勝ったらガッツポーズが出る。武道から見れば嘆かわしい行為である。格闘技に試合形式を取り入れれば勝負に拘り、本来の武道精神は失われるだろう。

私は居合道を修練しておりますが、常々塾長から制定居合の様に理法を無視し勝負に勝つ為の居合は居合でないと言われ、我々が習得すべきは古流の居合であり、残された文献があれば研究し、「如何にして確実に斬るか」を何度も繰り返し稽古して己の物にする技術を学び、「肚で抜き肚で斬り肚で納刀」ともっと丹田を鍛えることを主とすべきであると教わりました。

平成二十四年から中学校でも武道（柔道・剣道・相撲）が必須科目になりました。武道を通じて「礼儀・礼節、相手に対する敬意の念」を学ぶことが主眼と考えますが、少しでも武道に親しんでもらい、それぞれの武道をもっと極めて見たいと思う子供たちが増えれば、先々楽しみだなあと思います。